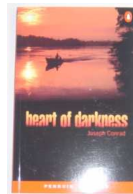


多読クラブ会員の皆様へ

書籍追加のお知らせ（2007年11月第2弾）

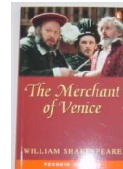
●Heart of Darkness (PGR 5) YL:5.5 総語数 29200

コッポラの「地獄の黙示録」の原作であると言われる、「闇の奥」の簡約版。蒸気船の船長としてアフリカの奥地に向かったマーロウが、クルツという青年の道徳的墮落を目のあたりにした体験談を、数年後、暮れかかるテムズ河に浮かぶ帆船の上で友人に語る。



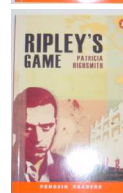
●The Merchant of Venice (PGR 4) YL:4.5 総語数 16800

邦題「ベニスの商人」の簡約版。戯曲仕立てで、台詞のやりとりで全体が書かれています。



●Ripley's Game (PGR 5) YL:5.5 総語数 25800

ある夜、トム・リプリーはパーティーに出かけるが、そこで、ある男に侮辱を受ける。普通の人間ならそこで怒り出すのだが、彼は普通の人間ではなかった。数ヵ月後、知り合いから2件の殺人のことで依頼を受けると、彼は、この夜のことを思い出し、復讐を計画する。



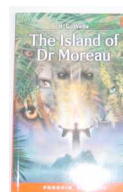
●The Whistle and Dead Men's Eyes (PGR 2) YL:2.5 総語数 8700

2人のイギリス人男性が静かな休暇旅行に出かける。しかし、そのうちの一人の男性が泊まっているホテルの部屋は、それほど静かではなかった。だれもいないはずのベッドに何かがいる。。幽霊の話。



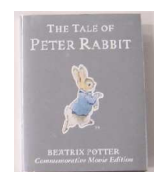
●The Island of Dr. Moreau (PGR 3) YL:3.5 総語数 13200

邦題「ドクター・モローの島」の簡約版。船が難破して孤島に漂着した若者（マイケル・ヨーク）は、そこでモローと名乗る無気味な博士に助けられる。モローはその島で、動物を人間に変える研究を進めており、その成果たる獣人たちが島のジャングルに生息しているのだが、やがて衝撃の事実が明らかに…



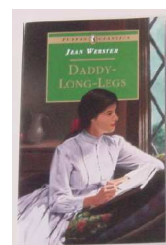
●The Tale of Peter Rabbit YL:1.3 総語数 900

CMでも馴染みのピーターラビットシリーズの第1巻です。ある日、お母さんウサギは4人の兄弟におつかいを頼みます。しかし、いたずらっ子のピーターだけ入ってはいけないといわれているマックレガーさんの庭に入ってしまう。さあ、ピーターの運命は。。。



●Daddy - Long - Legs YL:6.5 総語数 37000

孤児院で育ったジルーシャ・アボットは匿名の融資家のおかげで大学にいけることになった。ただし条件として月に一度文章の練習に手紙を書くようにとのこと。ジルーシャは、この融資家に「Daddy-Long-Legs」と愛称をつけて、手紙を書き始めた。そんな手紙が集まった書簡形式の小説。作者自らの挿絵がたくさんはいつているのも楽しいし、なんととってもこの手紙がとってもかわいい。時間がたつに連れて、少し切ない手紙が増えてくるのも、じーんと来て素敵。「足長おじさん」（新潮文庫）他の翻訳があります。



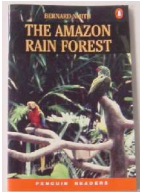
●The Ring YL:3.2 総語数 13000

私は12歳の時、叔父の住む海岸の村で精神に異常を来した Rafael に会う。働き者の漁師だった彼は、村中の人気者だった恋人 Anita が Carlos と出奔して以来、1人海辺で海を見て暮らしているという。やがて医師になった私はどうして彼が精神に異常を来したかを探り、彼を治療したいと謎を探る。短編としてトリックも良くできていて、ミステリーファンにも充分楽しめる水準です。（まりあ）



●The Amazon Rain Forest YL:2.4 総語数 6500

アマゾンの熱帯雨林に住む生き物に興味があって読み出したのだが、森林伐採が自然に対して大きな影響を及ぼす事などについても言及しており、考えさせられる内容であった。でもやっぱり、そこに生息している動物達の記述が一番面白かった。



Rainbow Magicをご存知でしょうか？世界中で読まれている児童書で、日本ではゴマブックスから翻訳版が出ています。前から存在は知っていたのですが、この、少女漫画っぽい表紙がどうも私の趣味には合わなくて、これまで入れていませんでした。しかしながら、先日の酒井先生の講演会で話題に出たこともあり、最初の7巻を入れました。ほとんど全てのページにかわいい挿絵があり、ストーリーがわかりやすいです。第1巻だけは最初に読んだほうがいいのかも。



●Ruby the Read Fairy YL: 2.8 総語数 4000

休暇に訪れた Rainspell 島で、Rachel と Kirsty は友達になりました。ふたりで島を探検していると、古い大きなつぼがあり、中から妖精が現れました。Ruby という名前のその妖精はふたりを妖精の国に連れて行きました。そして・・・

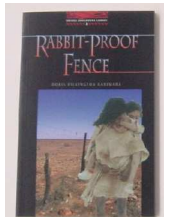
●Amber the Orange fairy YL: 2.8 総語数 4000 ●Fern the Green Fairy YL: 2.8 総語数 4000

●Sunny the Yellow Fairy YL: 2.8 総語数 4000 ●Inky the Indigo Fairy YL: 2.8 総語数 4000

●Heather the Violet Fairy YL: 2.8 総語数 4000 ●Sky the Blue Fairy YL: 2.8 総語数 4000

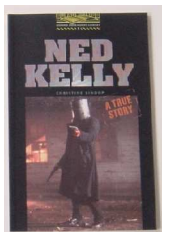
●Rabbit-Proof Fence YL: 3.3 総語数 10000 (OBW)

1931年の南西オーストラリアを舞台にした実話です。14歳のMollyと従妹のGracie(10歳)、Daisy(8歳)は、アボリジニ保護局の指令で故郷ジガロングから1600キロ以上離れた収容所に送られる。そこでは、アボリジニのことは禁止、子どもたちは白人社会に同化するための教育を受け、白人風の生活をし、成長したら白人のもとで働く労働者になる。けれどMollyが選んだ道は、母が暮らす故郷ジガロングに帰ること。Mollyは従妹2人を連れ収容所を脱走する。3人の少女は、追っ手をかわし飢餓と不安と戦いながら、徒歩で故郷のジガロングをめざす。1800キロ以上も続くRabbit-Proof Fence(ウサギよけネット)をたどりながら…。白人とアボリジニとの間に生まれた混血の子どもたちに対して“隔離同和政策”を行っていた頃のオーストラリアの様子がわかります。(字幕版VHSあり)



●Ned Kelly YL: 2.0 総語数 4000 (OBW)

【実話もの】Australiaで一番有名な銀行強盗Ned Kellyが、なぜ、犯罪を犯さなければならなかったのか？当時の警察や裁判は公平だったのかを解説します。Ned Kellyは賢く、また、正義感にあふれ、貧しい人々に犯罪で得たお金を配ったため、多くの支持者がいました。しかし、ついに警察に捕まり、警官殺しの罪で死刑をいわたされます。処刑の前日、家族がたった1日で32000人の減刑の請願署名を集めましたが、それは全く無視され、絞首刑となります。彼は利己的な犯罪者だったのでしょうか？それとも義賊だったのでしょうか？文章に、リズム感があり、いっきに読めて初心者にもお勧めです。2003年に映画化されています。



お知らせ：10月28日、実習教室で行われた多読講演会の様子を撮影したDVDを貸し出しています。当日は、1、酒井先生の「樽の穴」の話。2、独眼龍さんの体験談。3、質疑応答の三部構成だったのですが、1番最初の「樽の穴」の話は音声がか切れていたためカットして、二部の独眼龍さんの体験談を中心に約2時間に編集してあります。